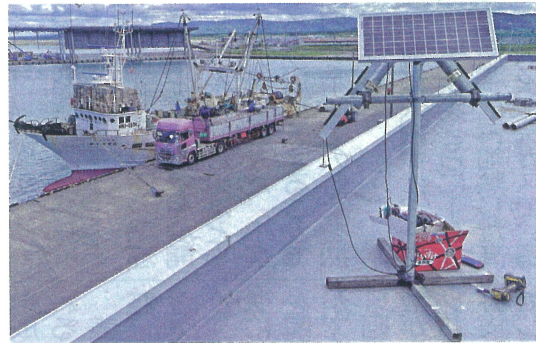


# 漁港の鳥害防止へ

## 聴・視覚両方で忌避対策

### 札幌市・ハーテックが提案

空港やのり養殖施設などで成果が認められる結果を得ており、北海道の水産現場での鳥害対策にも役立つと提案している。



鳥害対策は従来、ネットやワイヤー、剣山型マットの設置が多数を占めている。ただ、鳥は執着心が強く、慣れなども生じて追い払うには相当の忍耐力が必要となる。

同社が提供する「鳥用忌避装置」は、スピーカーから

ら鳥が嫌がる高周波音を漁港施設の停鳥場所などに照射。電源はソーラーパネルのほか、AC、自動車のバッテリーから取ることができるとしている。

照射範囲は150〜200坪。周波数は4種類。石崎社長は「人間同様に聴力の良しあし、聞こえやすい周波数に個体差があり、スイッチで周波数帯を切り替えられ

る。また、スピーカーを10個使用し、鳥が飛来する方向にマルチに照射できる」と説明する。

視覚からの撃退用品はヒトデから抽出した忌避効果成分「マリン・サポニン」を配合したテープや塗料。太陽光などが当たると鳥が嫌がる「光」が発生し「人間で言うところの西日がまぶしい状態になる。目から刺激が来て近寄らなくなり、慣れも生じない」と話す。

5月末に宗谷管内の漁港で実証試験を実施。塗料の塗布やテープの装着と併せ、荷捌施設の屋上と軽トラックに鳥用忌避装置を設置し、荷揚げ時に漁船や岸壁、トラックの荷台に向けて高周波音を照射した。その結果、海面に着水・静止し、漁船やトラックの周囲を飛び回ったり、近寄ったりするカモメが明らかに少なくなり、一定の効果が確認された。

また、小樽市高島地区ではテープのつり下げで「鳥が来なくなり、翌年はテープをつるしていないのに来なかった」。のり養殖施設では鳥用忌避装置を設置し「カモやウミウの食害防止に効果を発揮している」と示す。

安全・安心な水産物の供給に向け、漁港では糞の混入など危害要因となる鳥害の防止対策が不可欠。札幌市のハーテック(株)(石崎啓一社長)は、聴覚と視覚の両方から鳥が嫌がる刺激を与えて忌避効果を向上・持続させる方法を提案。これまでに

「鳥用忌避装置」を屋上に設置し、漁船や岸壁に向けて高周波音を照射した実証試験



トラックに忌避テープを装着



忌避塗料を塗布した係留柱

電柱などに塗布。乳白色だが、塗布後の乾燥で透明になり、景観を損なう

ことがない。

向のサーモン養殖施設などでこれら2つの対策の組み合わせを提案。鳥害忌避対策の相談、問い合わせは同社(電話011-792-1946)。

衛生・品質管理特集